

日本化粧品技術者会 第19回 SCCJ 優秀論文表彰において **ポーラ化成工業が「最優秀論文賞」を受賞**

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：三浦卓士）は、2017年度の日本化粧品技術者会 第19回 SCCJ 優秀論文表彰において、「最優秀論文賞」を受賞しました。

SCCJ 優秀論文表彰とは、日本化粧品技術者会（SCCJ、<http://sccj-ifsc.com/>）が編集・発行する日本化粧品技術者会誌に掲載された論文より2年に一度、「化粧品科学および化粧品技術の向上に貢献し、業界の発展に寄与する」論文を選出し、優秀論文として表彰するものです。今回は、2015年から2016年に掲載された論文24件の中から選出されました。

本表彰におけるポーラ化成工業の最優秀論文賞受賞は、今回で8度目（優秀論文賞受賞は過去12度）となりました。

本賞の授賞式は5月30日に開催された平成29年度第57回 SCCJ 総会（神奈川県横浜市、パシフィコ横浜）にて執り行われました。また、7月13日に大阪国際交流センターで開催される第80回 SCCJ 研究討論会において、受賞講演を予定しております。



授賞式での堀江亘研究員

●受賞の概要

最優秀論文賞・受賞論文概要

■論文タイトル：「ラメラ相コーティングパウダーファンデーションの開発」

英文名：「Hybrid of Powder Foundation and Skincare Function」

発表者：ポーラ化成工業(株) 開発研究部 堀江 亘、坂崎 ゆかり

■論文概要

パウダーファンデーションは水溶性成分を多く含まないため保湿性が低く、また粉体が皮脂を吸油するため乾燥感を引き起こします。この乾燥感を防ぐため、ファンデーションに保湿性を付与するとともに皮脂の吸油を抑制する手段として、使用する粉体をラメラ相^{※1}でコーティング（被覆）することが有効ではないかと考えました。

ラメラ相の形成成分を検討した結果、レシチンは水分を含み、かつ、皮脂と相溶しにくく、粉体表面に被覆されたときに皮脂吸油の抑制が期待されるラメラ相を形成することがわかりました。ラメラ相と粉体を物理的に混合する乾式法でサンプルを調製すると、均一に被覆された粉体が得られませんでした。そこでラメラ相を揮発溶媒に混合し、溶媒を蒸散させる湿式法で調製したところ、均一に被覆された粉体が得られました。

ラメラ相で粉体を被覆することにより、皮脂の吸油量が低下し、水分蒸散を抑制する効果が高まることが確認されました。また、単に油剤のみで被覆したものと比較しても、角層水分量を高める効果に優れており、官能評価では、乾燥感を感じる事が少ないことが確認されました。さらに、水溶性有効成分を内包させたラメラ相で被覆した粉体を肌に塗布すると、有効成分の角層への浸透量が高まることが確認されました。

今回開発した“粉体をラメラ相で被覆する技術”は、あらゆるパウダー製品に応用が可能です。パウダー製品でありながらスキンケア効果を実現できることで、新たな価値の提供につながる事が期待されます。

※1：親水層と親油層が交互に規則的に配列した構造で、親水層に水分を保持させ、有効成分を内包させることができる。